



平成29年度第1回防衛施設学会見学会 ～ 合衆国空軍嘉手納基地見学会レポート ～



(一社)防衛施設学会は、平成29年9月30日(木)、合衆国空軍嘉手納基地の見学会を実施しました。

今回の見学会は、米国軍事技術者協会日本支部(Society of American Military Engineers Japan Post: SAME Japan Post)、合衆国空軍第18航空団隷下の第18施設群の御協力により、初めて関東地区を離れての開催となりましたが、沖縄県内はもとより関東各地から48名の会員が参加しました。

見学会前日には、朝鮮民主主義人民共和国が北海道襟裳岬沖に向けて弾道ミサイルの発射を強行し、日本を巡る安全保障環境の厳しさを実感する中で嘉手納基地見学会となりました。

見学会は、①概況説明(第18航空団、第18施設群、防衛施設学会)、②嘉手納基地内工事現場視察、③滑走路地区を含む嘉手納基地ラウンドツアー、の内容で実施されました。

嘉手納基地に到着後、基地将校クラブにおいて、嘉手納基地担当者から基地概況説明を受け、嘉手納基地の編成、任務等について理解を深めることができました。

嘉手納基地は、沖縄県中頭郡嘉手納町・沖縄市・中頭郡北谷町にまたがる基地で、第5空軍(横田)の管轄下であり、総面積は約19.95km²、3,700mの滑走路2本を有する極東最大、また、在日米空軍最大の基地であるそうです。

また、第18施設群は、約1,600名の軍人、軍属、日本人従業員を擁する合衆国空軍最大の施設部隊で、第18施設中隊と第718施設中隊から構成され、第18航空団と30の関連部隊を支援しているそうです。通常、航空団の施設部隊は任務支援群の隷下部隊として編成されるのですが、第18施設群は航空団内の独立した群として編成されているそうです。第18施設群は、技術、ユーティリティ、防火、災害対応、環境保護の任務を負うと共に、戦時平時を問わず偶発事態に対する人道や自然災害に対する支援として世界中に航空遠征部隊を派遣するのみならず35,000人以上の人員に対する不発弾処理の役目を負っているとのことでした。

その後、同クラブ内で昼食。当日のメニューはアジアン・ピュフェで、各自バイキングを楽しみました。昼食にはSAME会員も同席し、日米の両施設学会員が同じテーブルを囲んで自己紹介をしながら昼食を共にし、相互理解を深めたことと思います。

昼食の後、当学会深和理事が防衛施設学会の概況説明の中において、学術研究、新技術開発、ミリタリーエンジニアリングに携わる者への啓蒙活動の三点を活動理念に挙げ、SAMEと連携することでこれらを強化していきたい旨、両学会員へ理解を求めました。



嘉手納基地(「道の駅 嘉手納」から)



嘉手納基地所在部隊マーク
第18航空団



第18施設群



第18施設群概況説明

深和理事による防衛施設学会概況説明

グレンジャー大佐の挨拶

概況説明終了後、SAME日本支部長でもある第18施設群司令官ロバート・S・グレンジャー空軍大佐から来基歓迎の挨拶があり、その後、当学会渡邊副理事長から感謝の挨拶があり、今後も相互連携を図る旨了解されました。

概況説明終了後、バスに乗車して嘉手納基地内の各工事現場の視察に向かい、統合クラブ施設新設工事、ポプ・ホープ／アメリカ・イヤーハート小学校新設工事、UEPH（非常同下士官宿舎）ドーム630・ドーム700の改修工事を見学しました。その後、ハブ・ヒル地区（かつて戦略偵察機SR-71部隊が所在した場所）展望所にて滑走路の全景を見学、滑走路地区を一周して各施設を車窓から見学しました。基地内に12か所の交通信号機が設置される嘉手納基地の広大さを実感したひと時でした。



統合クラブ施設新設工事



ポプ・ホープ／アメリカ・イヤーハート小学校新設工事



嘉手納基地売店施設にて

今回、以上のような内容で合衆国空軍嘉手納基地施設を見学できたことは、各参加者の貴重な体験になったものと思います。

当日の沖縄は、夏真っ盛りの日で、関係する全ての皆様のご協力により事故等もなく無事、見学会を終了することができました。

今回の見学会では、多数の参加申し込みがあり、誠に遺憾ながら、定員に達した時点で締め切らせていただきました。当学会では、会員の皆様に防衛施設技術、安全保障政策に関する理解を深めていただくため、今後もこのような見学会を実施していく所存です。

最後に、今回の見学会の実施にあたり事前準備や現場の案内等ご協力いただいた米国軍事技術者協会日本支部、合衆国空軍第18施設群の皆様及び見学会に参加された皆様に深甚なる謝意を申し上げます。参加者の皆様、遠路の見学会、お疲れ様でした。次回の見学会を楽しみに待っててください。